

横浜の関東大震災—大規模火災と消防体制を中心に—

2023（令和 5）年 6 月 5 日（月）
横浜都市発展記念館 吉田律人

◆Ⅰ、はじめに

◎関東大震災

【地震発生】1923（大正 12）年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、関東地震（M7.9／神奈川県西部）

【被害】死者・行方不明者推計約 105,000 人（横浜市約 26,600 人） 【被害状況】建物の倒潰・大火災

◎本日のテーマ—横浜の被害と復興

【都市横浜の転換点】地震はどのような被害を横浜に与え、横浜はどのように復興していったのか？

【歴史学的手法】史料批判を行いつつ、多種多様な歴史資料から過去の事象を検証→災害教訓の抽出

【体験者の記録】市民の日記・回想録、写真師の撮影した写真、画家のスケッチ…等々→災害の状況再現

◆Ⅱ、関東大震災の被害

◎横浜の市街地形成

【吉田新田】吉田勘兵衛による入海の干拓・埋立→横浜中心部の土地形成（現在の関外地区）

【横浜開港】武蔵国久良岐郡横浜村→国際的な貿易都市に発展・宗閤嶋の上に市街地を形成→吉田新田へ

◎地震発生と被災者の行動

【八木彩霞】元街小学校の美術教諭（洋画家）→元町の理髪店で被災し、高島山まで避難

【竹内八十吉】横浜貿易新報社記者→神奈川県警察部で被災し、内田町（横浜船渠前）まで避難

◎火災の拡大と消火活動

【消防体制】2 消防署・3 分署・8 出張所→消防自動車 7 台・水管自動車 4 台・蒸気ポンプ 2 台…等々

【同時多発的火災】289 カ所の出火点、強風による急速な拡大→建物の倒潰、瓦礫の散乱、水道の破裂

◆Ⅲ、横浜の震災復興

◎瓦礫処理問題

【軍隊の出動】治安維持及び救護活動を実施→工兵部隊による道路上の瓦礫撤去、水路開削、建物爆破

【処分場】沈下した土地の修復、処分場を山下町地先の海面等に指定→瓦礫及び石造物の粉碎・輸送

◎山下公園の誕生

【震災復興計画】内務省技師・牧彦七の計画→公園の存在を重視、山下町海岸埋立地の公園化を構想

【公園化計画の停滞】埋立地の埠頭化論⇔公園化論→1930（昭和 5）年 3 月 15 日、開園

◆Ⅳ、おわりに

①激しい震動と急速な火災の拡大、水道管の破裂、②避難所・防火帯としての公園、③瓦礫処理と山下公園

《参考文献・論文》

吉田律人「関東大震災と横浜市役所」（『横浜市史資料室情報誌 市史通信』第 5 号、2009 年 7 月）

吉田律人「関東大震災と『横浜貿易新報』—震災臨時号の分析を中心に—」（『横浜市史資料室紀要』第 1 号、2011 年 3 月）

吉田律人「『関東大震災』研究の現在—震災 80 周年以後の研究動向を中心に—」（『年報首都圏史研究』第 1 号、2011 年 12 月）

吉田律人「関東大震災と山下公園の誕生—横浜市の瓦礫処理問題を中心に—」（『歴史と地理』第 662 号、2013 年 3 月）

吉田律人「地震発生と被災者の行動」（『横浜開港資料館館報 開港のひろば』第 121 号、2013 年 7 月）

吉田律人「関東大震災 90 周年の成果と課題—横浜市の博物館及び文書館の視点から—」（『災害・復興と資料』第 6 号、2015 年 3 月）

吉田律人「第二消防署の関東大震災」（『横浜開港資料館館報 開港のひろば』第 147 号、2020 年 2 月）

横浜都市発展記念館・横浜開港資料館編『関東大震災と横浜』（公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2013 年 7 月）

横浜開港資料館編『横浜の大火と消防の近代史』（公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団、2019 年 11 月）